

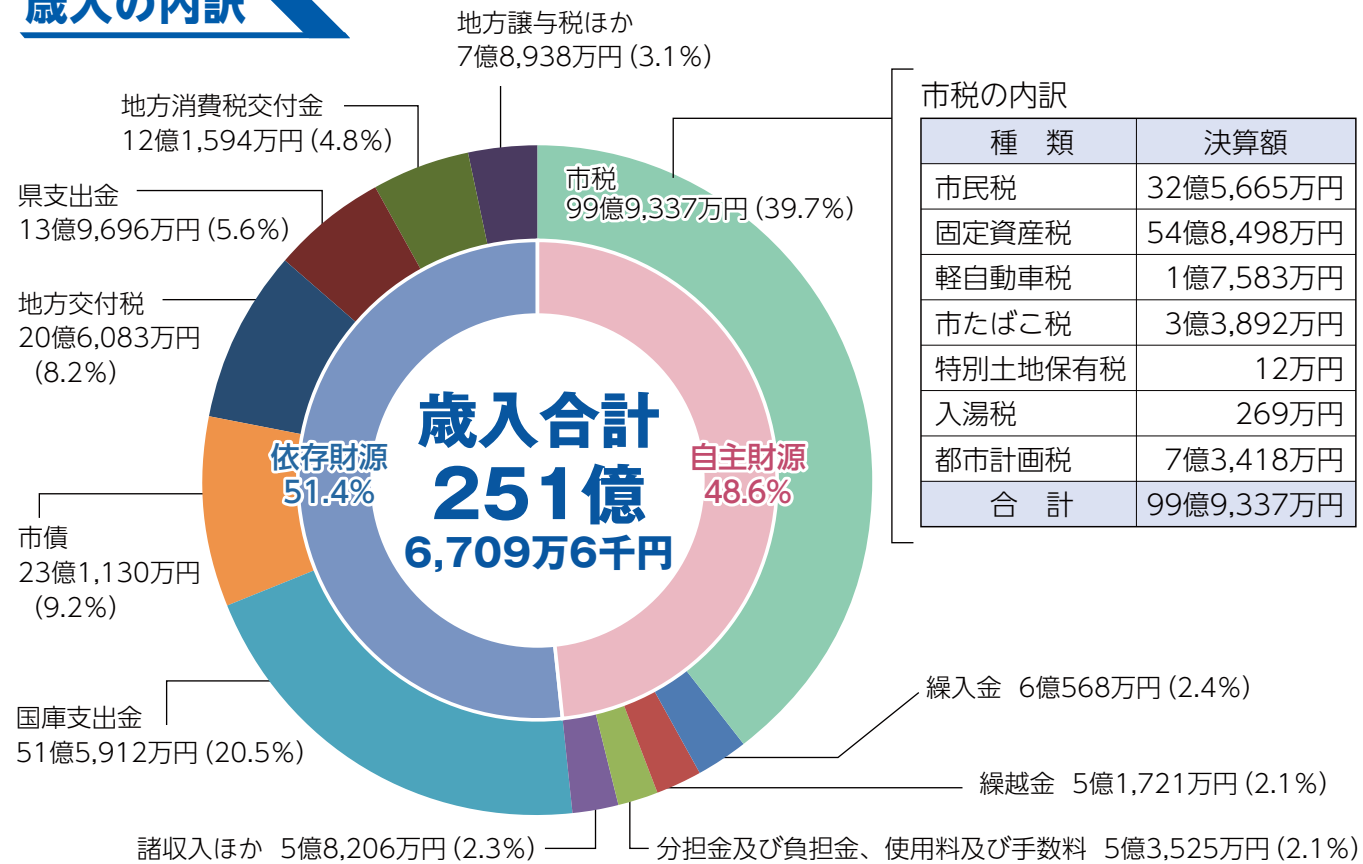
令和3年度 決算

令和3年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会で認定されました。

第2次総合計画前期基本計画の最終年度として、同計画の必達と第3次行財政改革大綱による健全な財政の確保を図りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止と社会経済活動の両立を目指した「総合対策パッケージ」の取り組みを推進し、適切な予算執行に努めました。

「令和3年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や国・県支出金がいくらで、どのように使われたか、また市の財政状況はどうなっているのか、詳しくお伝えします。

歳入の内訳



歳入は、前年度より約24億6千万円減少した決算となりました。地方財政の自主性を確保する自主財源は、市税収入が約1億5千万円、繰入金が約2億1千万円の減となったものの、分担金及び負担金が約1億5千万円、諸収入が約2億5千万円の増となったことが大きな要因となり、前年度より約1億1千万円増加し、構成比は歳入全体の48.6パーセントとなりました。

依存財源については、新型コロナウイルス感染症対策における、子育て世帯臨時特別給付金や住民税非課税世帯等臨時特別給付金に係る補助金の給付があったものの、前年度では、市民一人当たり10万円を支給する特別定額給付金事業があったことから、国庫支出金が大きく減となったことにより、約25億7千万円減少し、構成比は歳入全体の51.4パーセントとなりました。

●歳入額を市民1人あたりに換算すると 50万8,806円



※市民1人当たりの歳入および歳出額は、令和4年4月1日現在の人口(49,463人)で計算しています。

一般会計

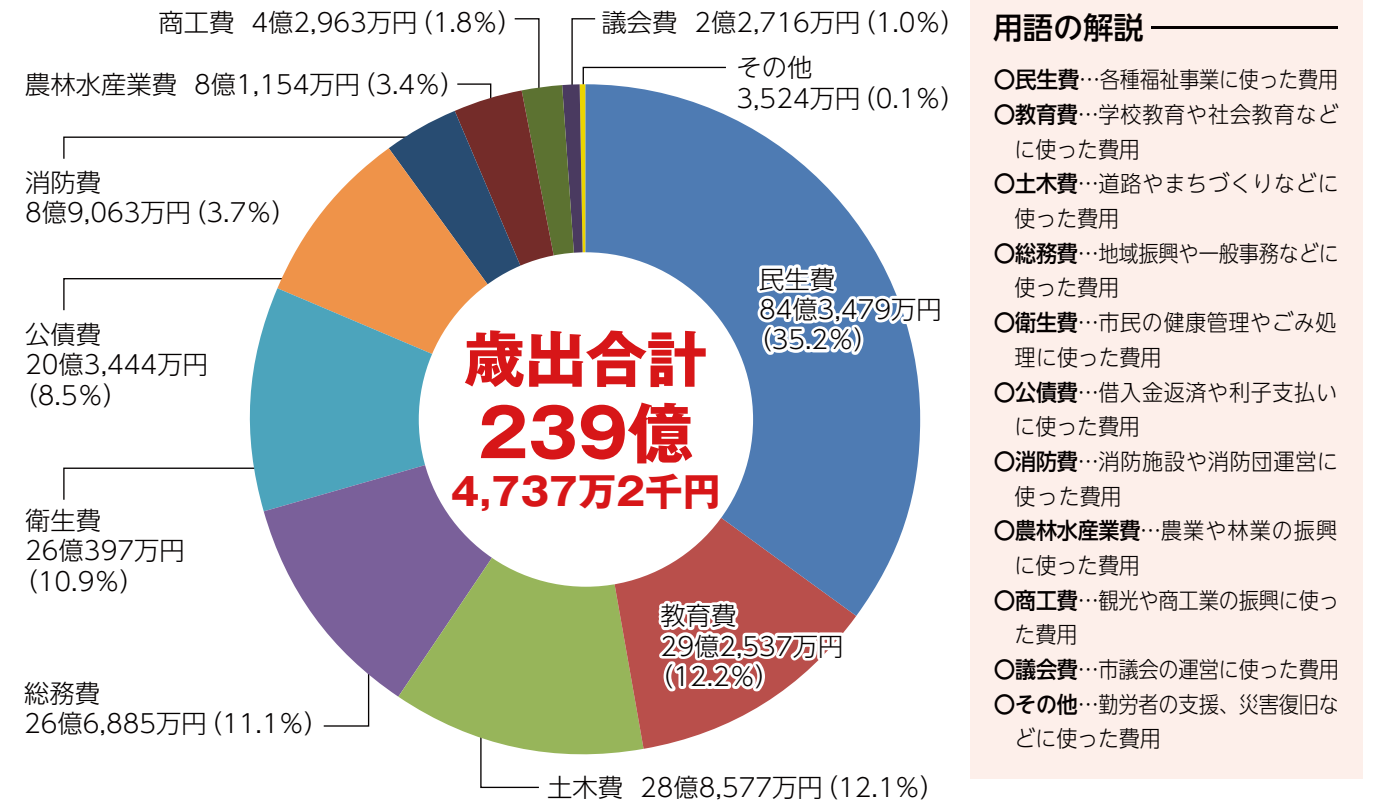
歳入決算額 251億6,709万6千円
(対前年度比 約24億6千万円の減)

歳出決算額 239億4,737万2千円
(対前年度比 約27億1千万円の減)

実質収支額 10億9,500万4千円

一般会計の歳入は251億6,709万6千円、歳出は239億4,737万2千円、歳入歳出差引額は12億1,972万4千円となり、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は10億9,500万4千円となりました。

歳出の内訳(目的別)



用語の解説

- 民生費…各種福祉事業に使った費用
- 教育費…学校教育や社会教育などに使った費用
- 土木費…道路やまちづくりなどに使った費用
- 総務費…地域振興や一般事務などに使った費用
- 衛生費…市民の健康管理やごみ処理に使った費用
- 公債費…借入金返済や利子支払いに使った費用
- 消防費…消防施設や消防団運営に使った費用
- 農林水産業費…農業や林業の振興に使った費用
- 商工費…観光や商工業の振興に使った費用
- 議会費…市議会の運営に使った費用
- その他…勤労者の支援、災害復旧などに使った費用

歳出は、前年度より約27億1千万円減少した決算となりました。目的別で見ると、民生費が子育て世帯臨時特別給付金給付事業、住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業の増などにより前年度と比べ約12億9千万円の増、衛生費が予防衛生事業の増などにより前年度と比べ約5億円の増、土木費が亀山駅周辺整備事業の増などにより前年度と比べ約4億9千万円の増があったものの、総務費が特別定額給付金給付事業の減などにより前年度と比べ約45億円の減、教育費が情報化推進事業の減などにより前年度と比べ約4億2千万円の減となったことが主な要因です。

●歳出額を市民1人あたりに換算すると 48万4,147円

